秋夕琵琶湖に泛ぶ　　梁田蜕巖

湖北湖南暮色濃やかなり　　篙を停め首を回らして孤松に問う

滄波両岸秋風起こり　　吹き送る叡山雲裏の鐘

【作者】梁田蜕巖（一六七二～一七五七）江戸中期の儒者、詩人、名は邦美、江戸の人。父は前橋候の家老、山崎闇斎に私淑、朱子学を修め、新井白石にもあつく厚遇された。四十八歳より明石候（松平直常）に仕え藩士に学問を教えた。京阪の詩壇にあって活躍し詩豪と称され、八十六歳で没した。

【語釈】＊篙…さお、船を進めるための長い棒。　＊孤松…近江八景のひとつ「唐崎の一つ松」
＊滄波…青々とした波　＊雲裏…雲の中

【通釈】琵琶湖の湖北湖南ともに暮色が濃くなってきた。棹をとどめ、唐崎の松はどこだろうかとあたりを見回してみる。青波の寄せる岸辺には秋の風が吹いて、雲の中から叡山の鐘の音を吹き響かせている。